

校内研究を通した推進リーダーの役割の明確化

学籍番号 17AX003
氏名 柏木 裕子

要旨

世界の教育改革の潮流はコンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースへの転換であり、日本でも新学習指導要領で、外国語活動の強化、特別の教科道德の実施が示され、これまでの知識偏重型から脱却し、思考力や表現力を主体的に育むアクティブラーニングを重視する方針を掲げている。所属校でも新学習指導要領実施を踏まえ、新しく入ってくる課題に対応するため、教育課程の見直し、外国語活動・外国語、特別の教科道德の授業実施に向けた準備を進めてきた。学校全体で新たな課題にどう対応していくかを効果的に考え、推進していくことが課題となっている。そこで、本研究では所属校の課題の一つである学校全体で取り組む「特別の教科道德」の指導を充実させるために、どのような手立てが必要か校内研究を推進するリーダーの取り組みに着目し、その役割を明らかにする。

2章では、ピーター・M・センゲの説く「学習する組織」の考え方に触れ、学習する組織になるために推進するリーダーが必要なこと、そのリーダーとはどのようなリーダーなのかということを整理した。では実際、学校ではどのような取り組みが行われているのか研究先進校2校の実践について、学習する組織におけるチームの中核的な学習の能力の視点から分析すると、両校とも5つのディシプリンと対応して実践していたことが分かった。そして、そこから推進リーダーの役割として共通している10項目を抽出した。

3章では、この10項目が有効であるかを所属校の実践を通して明らかにしていくこととした。今年度の取り組みの主な3点「めざす子ども像の共有化」「研修会の実施」「授業研究の実施」について詳細を記した。実践からよい面が見られた反面、学習する組織におけるチームの中核的な学習能力の「複雑性の理解」、「システム思考」が弱いという課題が明らかとなった。それぞれの実践が単発的にならないよう、複雑に関連し合いながら共有ビジョンのもと、5つのディシプリンがバランスよく高まっていくことが重要となる。今後も推進リーダーが役割を自覚して実践を積み重ね、よりよい学校を築いていきたい。